

教育

edu@asahi.com

広がる短期留学 低年齢化も

「グローバルな人材」が求められる時代、夏休みを利用して短期留学する小中高校生は増えてきている。

留学ジャーナル（東京都）の今年7月末のまとめでは、この夏の中高生の留学申込者数は過去10年で最多、高1は昨年比で24%増となった。部活動や塾の夏期講習との兼ね合いもあり、期間は2週間が61%、3週間が24%だったという。

同社広報担当によると、異文化体験や、英語を意欲的に学ぶ動機づけにしたいという保護者が多い。一方で高校生では、英語でディベートを繰り返すリー

ダーシップ育成の高度なプログラムも増えており、奨学金への問い合わせも急増しているという。今回紹介した「TOMODACHI」のような企業による奨学金だけでなく、地方自治体からの派遣や、塾と留学会社の共催なども広がっている。

塾経営から発展して全国で留学事業を手がける「ISC留学net」（静岡県）の大場規之代表は「留学する層の裾野は広がり、低年齢化もしている。日本の英語教育や大学入試の改革によって、海外で学ぶことの価値を多くの親子が感じ始めているのではないか」と話す。

